

ASILE FLOTTANT 再生〜ル・コルビュジエが見た争乱・難民・避難〜  
平成29年度 活動報告

「アジール・フロタン」は、ル・コルビュジエが救世軍の依頼により設計した難民避難船である。この船は、第一次世界大戦の混乱により、パリ市内にあふれた難民の収容を目的として1929年に竣工した。

ル・コルビュジエは、元は石炭運搬船であったコンクリート製の船体に柱と屋根・水平窓の増築を行い、自ら想定した近代建築の原則に沿った空間を実現した。そして船の内部にはキッチン、シャワー、トイレ、そして100以上のベッドを並べ、できるだけ多くの難民を収容できるように工夫したのである。

1995年に老朽化により難民の収容を終えることとなったこの船は、近年に至るまで、ノートルダム大聖堂から上流1キロのセヌ川左岸に浮かんでいたが、それをミシェル・カントル・デュパール氏ら5名の有志が買い取り、2005年から修復工事が継続して行われてきた。2017年末までには、船底から屋根部に至るまでの防水処理を終え、内部は柱の色を竣工当時同様のブルーに戻す塗装工事も終えた状態となり、その後は、日本の企業から寄贈される栈橋が設置され、2018年後半からは、ギャラリーとして使われる予定であったが、2018年1月、セヌ川の増水によって浸水し、ほぼ水没している状態になっている。

2017年度は、アジール・フロタンを文化施設（ギャラリー）として再生するためのクラウドファンディングを行い620万円の寄付を募ることができた（\*1）。

また、アジール・フロタン再生プロジェクトを紹介する展覧会「アジール・フロタン再生展 -浮かぶ避難所 ル・コルビュジエが見た争乱・難民・抵抗」を東京・横浜・大阪・山口の全国4会場で開催した。（\*2）

辰巳 明久（美術学部教授）

（\*1）

Ready for：「世界遺産の建築家ル・コルビュジエ設計の難民船を文化施設へ再生」実行委員長：遠藤秀平（建築家／神戸大学 教授）

賛同者：五十嵐太郎（建築史家／東北大学 教授）／岩田章吾（建築家／武庫川女子大学 教授）／大林剛郎（パリ・ボンピドゥー・センター日本友の会 会長）／倉方俊輔（建築史家／大阪市立大学准教授）／光嶋裕介（建築家／神戸大学客員 准教授）／斎藤公男（構造家）／末包伸吾（建築家／神戸大学 教授）／竹口健太郎（建築家）／竹山聖（建築家／京都大学 教授）／辰巳明久（デザイナー／京都市立芸術大学 教授）／マニユエル・タルディッツ（建築家／明治大学 特任教授）／團紀彦（建築家）／千葉学（建築家／東京大学 教授）／槻橋修（建築家／神戸大学 准教授）／手塚貴晴（建築家／東京都市大学 教授）／陶器浩一（構造家／滋賀県立大学 教授）／長坂大（建築家／京都工芸繊維大学 教授）／中村勇大（建築家／京都造形芸術大学 教授）／南條史生（森ビル美術館 館長）／淵上正幸（建築ジャーナリスト）／堀口徹（近畿大学 講師）／前田茂樹（建築家／大阪工業大学 准教授）／松本明（建築家／近畿大学 教授）／萬田隆（構造家／神戸芸術工科大学 准教授）／水野誠一（ソーシャル プロデューサー）／宮本佳明（建築家／大阪市立大学 教授）／宗本晋作（建築家／立命館大学 准教授）／佐野吉彦（安井建築設計事務所 社長）／橋本功（前川建築設計事務所 所長）

寄付者：116名

<https://readyfor.jp/projects/asileflottant>

(＊2)

展覧会「アジール・フロタタン再生展 -浮かぶ避難所 ル・コルビュジエが見た争乱・難民・抵抗」

〈東京展〉

会期：2017年8月5日ー8月22日

会場：ASJ TOKYO CELL（東京都千代田区丸の内3-4-2 新日石ビル1F）

トークイベント：8月19日 五十嵐太郎×遠藤秀平×マニユエル・タルディッツ

〈横浜展〉

会期：8月25日ー9月13日

会場：ASJ YOKOHAMA CELL（横浜市西区みなとみらい2-2-1 横浜ランドマークタワー31階）

トークイベント：9月2日 遠藤秀平×五十嵐太郎「映画『ル・コルビュジエとアイリーン～追憶のヴィラ～』を語る」

〈大阪展〉

会期：10月26日ー11月1日

会場：ASJ UMEDA CELL（大阪市北区角田町8-1 梅田阪急ビル オフィスタワー 24階）

トークイベント：10月26日 遠藤秀平×倉方俊輔×光嶋祐介

〈山口展〉

会期：12月15日-24日

会場：やまぎん史料館（下関市観音崎町10-6）

トークイベント：12月17日 遠藤秀平×千代章一郎×中川明子

トークイベント：12月24日 内田文雄×遠藤秀平×辰巳明久